

つながりが 価値をつくる

「農」が広がる

風土と技術を活かして

品質の良さと多品種生産は中川農業の特徴。変化に富んだ地形に、

りんご栽培の発祥を語るもので、その後の果樹栽培の成長発展を目についたのです。

地域に根ざした「質の経済」へ

恵まれた自然風土を活かし、中川村は農業を主力に産業を拓いてきました。規模は小さくとも、人と人、人との人がしたたかにつながり、関わり合うのが中川流地域経済の形態です。そこから村特有の価値が生まれてきます。



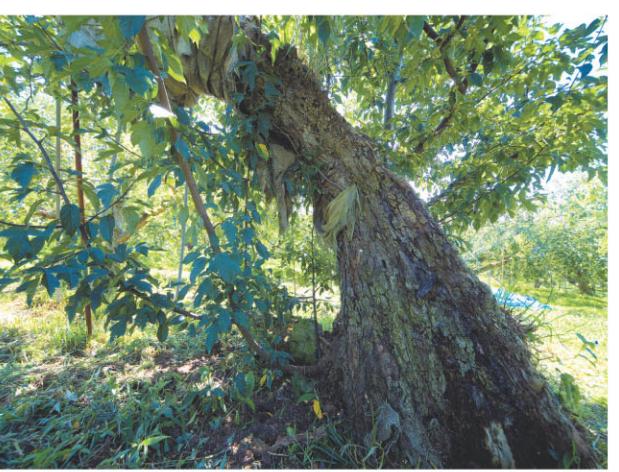
浦上明三さん。自宅横の桃畠にて

伊那谷でりんごの栽培は、大正4年にお隣りの松川町で始まったといわれています。ちょうど高橋さんの祖父が大國光の木を植えた翌年です。大

地を探して現在地に植栽したもので、以来3代にわたり生育されてきました。今も素朴な実を結びます。

浦上明三さん(小平)は、このよみがあるのはやっぱり果樹。こんな実ができるならなどと考えながらやっている。自分の力量が發揮できるところが楽しみ」といいます。とはいっても、「毎年一年生」と達

人はいたって謙虚。良いものをつくるポイントも「まず天気。中川は



村のりんご栽培の発祥と発展を象徴する、樹齢90年余の大國光の古木。風雪に耐えて歴年の重みを負うように、その姿は威風堂々



味噌づくり体験会



山菜を味わう会



代かき作業

作物づくりから「関係」づくりへ

いいものをつくるという生産技術力追求の一方で、村には違う側面から農業に可能性を見出そうとする人も増えてきました。

平成19(2007)年4月、村内



農家6軒が集まり、農家民宿などに取り組むグリーンツーリズムネットワーク「笑うちかたび」が結成されました。メンバー共通の思いは、交流の中から自分たちも地域も元気になること。地元の魅力を再発見し、郷土食や伝統文化を継承し、体験の場を提供



農作業を通じた都市住民との交流は、将来の中川ファンづくりを見据えた長期的な取り組みでもある

中山晶行さん(三共)宅は、ファームサポート事業の受け入れを始めた5年。「来てもらうようになつて、仕事にプラスアルファが生まれました。農業を楽しむ気持ちの余裕もできました」と妻の優子さん。農業の可能性を開いてくれるファームサポートを「新しい風」だといいます。

ファームサポート事業の特徴は、「親戚や縁故関係と違う新しいおつき合い」「金銭のやりとりがない関係」「足りないところをお互いに補い合う関係」「仕事プラスアルファの価値を創り出す関係」などが挙げられます。

村ではこのほか、農家と連携してりんごの木のオーナー制度や都

会の子どもたちの体験学習受け入れなども行っています。

するところで農の現場を多くの人に知つてもらうことが目標です。会の基調は「自分たちが楽しむ」。ここに住む者が楽しむことで、訪れた人にもそれは地域の魅力になつて伝播していきます。

中川村が平成15年から取り組んでいる「ファームサポート事業」

りんご栽培の発祥を語るもので、その後の果樹栽培の成長発展を目についたのです。

浦上明三さん(小平)は、このよみがあるのはやっぱり果樹。こんな実ができるならなどと考えながらやっている。自分の力量が發揮できるところが楽しみ」といいます。とはいっても、「毎年一年生」と達

人はいたって謙虚。良いものをつくるポイントも「まず天気。中川は